参考資料３

ユニバーサルデザインガイドライン素案に対する意見と反映状況一覧（令和４年度第１回UD協議会）

No.	掲載場所	頁	協議会委員の意見要旨	ガイドラインへの反映
1	サインとは	5	突然「サイン」という言葉が出てきて、定義が分かりにくかった。「サインというのはどういうものなのか」ということが、書かれていれば分かりやすい。	・「サインとは」という項目を設け、一般的なサインの定義のほか、ガイドラインが扱うサインの定義を記載した。
2	取り組みの姿勢	7	職員が自分たちで考えられるようなガイドラインを作るというのはとてもチャレンジ的である。自分たちで考えるということは運用開始後がとても大切になってくる。そのためには失敗事例やいろんな事例を載せてほしい。また、自分たちだけで考えるとどうしても情報が氾濫して「負のスパイラルアップ」に陥ってしまうことが懸念されるので、ぜひ庁内連携・横連携をして検討していってほしい。	・原案の段階で、事例集や資料編を掲載する。また、庁内連携・横連携については、「取り組みの姿勢」の一つとして、「関係者みんなで考える」を記載した。
3	サインの配置	15	申請業務も横連携して、一つの部署に行ってそこから次の部署へ、という案内をわかりやすいデザインにしてもらいたい。	・円滑な案内を実現するため、「配置の種類について考える」を記載した。
4	サインの仕様	21	電光表示、ディスプレイ、レーザーサイリウムのこと等も表現方法に含めるべきではないか。	・「サインの伝達方法を選択する」において、デジタルサイネージを記載した。
5	サインの表現方法	24	書体以外にも文字の間隔が大切である。文字が詰まり過ぎていると、とても読みづらい。	・「見やすさについて考える」において、文字間隔について記載した。
6	サインの表現方法	24	書体や文字の幅以外に、障がいの特性によっては、色の使い方により見にくくなる場合がある。明るさや色もぜひ検討してほしい。	・「色について考える」を記載した。

No.	掲載場所	頁	協議会委員の意見要旨	ガイドラインへの反映
7	サインの表現方法	23 25	「作成するうえで考えること」④の伝達方法に「視覚情報サイン」「触覚情報サイン」「聴覚情報サイン」などサインの伝達手段が説明されているが、「デザインするうえでの基本ポイント」には書体・文字の大きさ・ピクトグラム等、視覚情報のデザインのことしか書いていない。ここには伝達手段ごとにサインを作成するポイントを記すべきではないか。	・「サインの表現方法」の一つとして、「聞きやすさについて考える」を記載した。
8	サインの表現方法	29	発達障がい者や聴覚障がい者には、ピクトグラムを使った表現は有効である。	・「理解しやすさについて考える」の中で、「ピクトグラム」について記載した。
9	サインの表現方法	30	サインに表示するのは、数字などのシンプルな表現がよい。特に最初についているとより良い。リストになった時でも最初に数字がついていれば大体どのあたりに記載されているかすぐにわかる。	・「理解しやすさについて考える」の中で、「数字」について記載した。
10	掲示物	33	QRコードはすでにかなり普及しているが、とても大変助かる。場所も取らず、サイン自体を更新せずにとんだ先のサイトを更新すれば情報を更新できるので、とても便利だと思う。	・容易に情報の整理や更新などをする方法の一つとして、「二次元コード」について記載した。
11	継続的な見直し	33	建築の仕事をする中で、建てる前の設計段階で使い勝手やサインについて検討しているが、運用が始まると思ったよりうまくいかない部分も出てくる。そういったものをフィードバックしてガイドラインを更新していける仕組みを作ることが大事ではないか。	・「運用開始以降に考えること」として、「継続的な見直し」を記載した。
12	その他	―	関連部署や、専門家からの意見と、それをどう反映したのか見える化してほしい。	・今回、協議会資料として提出する。
13	その他	―	特別支援学校では、貼り紙の仕方をしっかり考えていて、教室もシンプルにして本当に必要な情報に絞って伝えている。もし参考になるなら、見学してもよいかもしれない。	・視察を実施した。